

五大のもとへ御書

弘安元年 五七歳

追申

五大のもとへは三四度も之を申し、他所に於て之を聞かしむ。将又事に依りて子細有るべきか。伯耆阿闍梨の事は但我私なるやうなるべし、^{はたまた}設ひ件の人見参為と雖も其の義を存して候へ

等御尋ねあるべし。経は或は先後し、或は落経にても候はず、

りけなくなに事もかくの事 不沙汰あるか。ものくるわしきとはこれなり。法門もかしこききやうにて候へばかるかるべし。